今月の窓

冷静な頭脳と温かい心（Cool Head, but Warm Heart）

３月11日に東日本を襲った巨大地震は，壊滅的な威力を持った大津波を引き起こし，戦後最悪の被害をもたらした。さらに，深刻な原発事故も発生し，その行方はいまだに不安視されており，日本のみならず世界の経済・社会への悪影響が大いに危惧されている。

しかし，未曾有の危機に直面したにもかかわらず，略奪や暴動を起こさず互いに助け合い協調し合う日本の人々には，海外から多くの称賛が寄せられた。

このような日本の人々の姿は，新古典派経済学に代表される標準的な経済学が前提としてきた「合理的経済人」とは異なる。この「合理的経済人」とは，あらゆる事象に対して合理的に判断しもっぱら自己の利益のみを追求する人間像で，この人間像を前提にしてこれまでの標準的な経済学は，理論体系が構築されてきた。けれども，近年では，この「合理的経済人」の前提を否定する行動経済学などの新しい分野の経済学が著しい発展を遂げている。そして，今回の大災害において日本各地で見られた他人を思いやる利他心や協調性が発揮された人々の姿からも，「合理的経済人」を前提にして議論することが適切でないことは明らかである。

各経済主体の利己的行動が「見えざる手」によって導かれ社会全体にとっては望ましい結果がもたらされるという主張を行ったことで知られる経済学の祖アダム・スミスも，その著書『道徳感情論』で，人々は他人が報われることにも動機づけられていると説明し，利他心や協調性の重要性を強調している。

また，アダム・スミスが活躍した時代から１世紀ほど経った19世紀末に活躍した近代経済学の父と呼ばれるアルフレッド・マーシャルが，ケンブリッジ大学教授就任講演で，「経済学を学ぶためには，冷静な頭脳と温かい心（Cool Head, but Warm Heart）を持たなくてはならない」と説いたことは有名である。論理的に物事を解明する冷静さとともに高い道徳心で社会問題の解決に取り組まなければならないという教えは，経済学を学ぶ者にとっての心得として現代に至っても語り継がれている。

さらに，日本が生んだ偉大な農政家である二宮尊徳の名言のひとつとして，「道徳なき経済は犯罪であり，経済なき道徳は寝言である」という言葉が伝えられている。江戸時代後期に農村復興政策に生涯取り組んだ二宮尊徳は，道徳に基づく経済政策の大切さについて身を以って知っていたのだろう。

つまり，他人を思いやる利他心や協調性すなわち人間としての道徳を決して否定するのではなく，むしろその重要性を十分に認識することが経済学には本来求められているのである。そして，このことは，経済学の知見に従って政策を立案し実行する際にも忘れてはならないだろう。

いずれにしても，現在の状況は厳しいものと言わざるを得ない。まずは，被災地の復旧そして復興を急がなくてはならないが，冷静な頭脳と温かい心で道徳に基づく経済政策を実行し，日本の未来を見据えた経済・社会の建て直しにも立ち向かわなくてはならない。

（（株）農林中金総合研究所　調査第二部長　矢島 格・やじま いたる**）**